

平成29年度 両荘中学校 学校評価(学校評価検討委員会)

A できている B だいたいできている C あまりできていない D できていない

領域	評価項目	評価	自己評価の顕著な結果・意見等	学校関係者からの意見等	改善策
学力向上	「学習意欲を高めるためのわかる授業づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> すべての教師が「指導方法の工夫に努めた」と回答したが、「個別の学習指導に努めた」のは約60%であった。 保護者の約70%が「学校はわかりやすい授業を行っている」、約60%が「学校での学習内容をおおむね理解している」と回答した。 生徒の約80%が「楽しくわかりやすい授業がある」、「授業を通して興味を持ったことがある」と回答した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習内容を理解している」と答えた保護者の割合は、「わかりやすい授業がある」と答えた割合より少ない。 個に応じた課題を与える等、個別の対応方法を考えるべきではないか。 生徒が学習内容に興味を持つような話題を交えた授業展開に期待している。 特に3年生では、面接練習や補充学習等を充実させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 協動的探求学習を展開し、生徒が学習内容に興味を持ち、主体的に活動する場面を設定する。 生徒一人一人の興味関心や学習内容の理解度を的確に把握し、個々の学習過程を大切に活動を展開する。 計画的に面接や補充学習の時間を確保し、一人一人の進路保証に寄与できるよう努める。
	「自主的・主体的な学習習慣と基礎学力のための家庭学習の定着」	B	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習を大切にしている」生徒は、3年生は昨年より増加し、2年生は減少した。 90%以上の生徒が「授業の用意や持ち物をそろえて登校している」と回答した。 「授業中、先生の話や他の人の話を集中して聞いている」、「わからないことを先生や友達に聞く」生徒の割合は、昨年度を下回っており、集中して取り組める手立てや協力して学習に取り組む姿勢を育む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提出について、個に応じた提出期限を設定してくれる先生がいる。 提出物の意義や目的、提出までの流れを教えてほしい。 家庭においても机に向かっている時間を確保し、学習習慣を確立する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出物の意義や目的、進め方等について、わかりやすく説明する。 必要に応じて、課題の内容や量、提出期限等を個別対応する。 「学習内容を十分に理解できていない」生徒、「理解するのに支援が必要な」生徒、「家庭学習が不十分な生徒」等に対する「個に応じた指導」を全職員で推進する。
規律ある生活	「望ましい生活習慣の育成」	B	<ul style="list-style-type: none"> 90%以上の教師が、「生徒指導上の課題に対して共通理解を図り、同一歩調で対応している」と回答した。 90%以上の生徒が「あいさつや返事ができる」「決められた時間を守って生活している」と回答している。 「家庭学習を大切にしている」生徒は約60%であった。 90%以上の保護者が、我が子は「校則や交通ルールなどのきまりを守っている」と答えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「遅刻がなぜいけないか」を指導されると、生徒にも入りやすいと思う。 挨拶をしている生徒は多いが、していない者もいる。また、ヘルメットをかぶっていない生徒もいる。 スマートフォンやゲームが家庭学習の妨げになっている。また、不規則な就寝時間になる原因となっている。 自分が中学生の頃は先生に厳しく生活指導をされた。中学校にはそういった側面も必要のように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活のマナーやルールの意義・目的を説明した上で指導を行う。 「スマートフォンやSNSの危険性」についての学習会を開催する。 遅刻やヘルメット・挨拶・SNSに限らず、望ましい生活について、生徒会を中心に考え、生徒と教師が「自律」についての共通理解を図る。
	「生徒理解と信頼関係づくりのための相談活動や個別指導の充実」	B	<ul style="list-style-type: none"> 教師の80%以上が「生徒との信頼関係作りを目指し、カウンセリングマインドを取り入れた生活指導に努めている」と回答した。 「相談できる先生がいる」生徒は55%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別のカウンセリング体制が整っているか疑問である。 学年を越えての指導がなされていないように感じる。 女性担任が少ないので、話の内容によっては打ち明けにくいこともあるのではないかと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーやメンタルサポーターの積極的活用を呼びかける。 小規模校ならではの特性を生かし、すべての教師がすべての生徒と関わる指導を推進する。
	「行事や部活動による良好な人間関係づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の80%以上が「感動した学校行事があった」と回答したが、1・2年生の肯定的回答率は50%程度であった。学校行事のなかで1・2年生が主役となる場面が少ない可能性が示唆される。 生徒の80%以上は「部活動は楽しい(楽しかった)」と答えた。 「生徒会の一員として協力している」生徒は、昨年度に比べ10%程度減少した。生徒会に対する帰属意識は低いように思われる。 「地域の行事やボランティア活動に積極的に参加している」1・2年生は70%程度であるが、3年生は50%以下であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会といえば本部役員のみを指すように思っているのではないかと感じる。生徒全員が会員であることを再認識させる必要があるのではないかと感じる。 ボランティアや地域行事等への参加は、友人関係が参加如何の基準となってしまっている。 世代間交流運動会は前もって子供に参加を言い聞かせていたので参加できた。 保護者が声掛けをして地域行事に参加させていることがある。何も言わなければ、休日はゲーム等を夜中までやって昼まで寝ているかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒総会を通して「生徒会」について考えさせ、学級生徒会や各委員会活動の充実を図る。 「ボランティア」の意義を考え、学校生活の中で主体的に行動できる場面を継続して企画する。 行事や活動の意義・目的を生徒と教師が共通理解するとともに、1・2年生が活躍できる場面を設定し、成就感を味わわせる。 地域広報チラシ等の掲示や生徒会放送等を利用して、地域行事への積極的参加を呼びかける。 総合学習や道徳の授業等を通して「ふるさと意識」の醸成を図る。
豊かな心・豊かな環境	「道徳の授業と人権教育」	B	<ul style="list-style-type: none"> 「道徳教育の推進に努めている」教師の割合が昨年より上昇している。 80%以上の生徒が「他の人のためになることをしよう」「人が困っている時は助けよう」「相手の気持ちを考えて人と接しよう」と考えている。 「周囲の間違った言動を注意したり、教師に報告するようにしている」生徒は50%以下であった。教師や生徒同士の信頼関係を早急に回復する必要があると思われる。 90%以上の保護者が昨年同様「自分の子どもが道徳観や人権感覚を身につけている」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各設問の回答から、3年生の成長の跡が見てとれる。 保護者としては、自分の子どもは人権感覚は育っていると感じているが、道徳や人権に関する授業の内容がうまく伝わっていないと感じる。 道徳が教科になると聞いたが、評価はどのようにしていくのか教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で話題にしやすいように、学年・学級通信等で道徳や人権に関する授業の情報を発信する。 教師と生徒との信頼関係をより高めるために、保護者との連携をより深めていく。 道徳の評価は、それぞれの生徒が学んだことを学期や学年毎に文章記述する。教科化に向けた職員研修を行い、保護者に生徒の学びを適切に伝えることができるよう努める。
	「心和む美しい学校を目指した環境づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> 95%の教師が、「美しい学校になるよう、環境整備に努めている」「学校の施設や設備の安全点検を心がけ、事故防止に努めている」と回答した。今後も環境整備や安全点検に全員で取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動で校内環境の整備に取り組んでいるのは、すばらしい。また、ボランティア活動で地域はかなり助けられている。 1年生の保護者の評価が低いのは、1年生の教室がある北校舎に図書室や理科室などの特別教室等があるため、環境整備が整っていないように見えるからではないかと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校から地域へ」また「地域や保護者が学校へ」といったボランティア活動のあり方を探り、本校区ならではの「共生」を実感できる学校づくりを目指す。 古い備品の廃棄や日々の清掃活動を計画的に行い、特別教室の環境整備を進める。
信頼される学校	「学校生活の公開と広報活動の充実」	B	<ul style="list-style-type: none"> すべての教師が「学校と家庭との連携を図るため、保護者に誠意を持って対応するよう努めている」と回答し、「開かれた学校づくりを旨とし、学年・学級通信等による情報発信に努めている」教師も大幅に増加した。 80%以上の保護者が「資料を通して、学校の指導方針や取り組みがよくわかる」と回答した。 「学校からの配布物やプリントを、お家の方に渡している」生徒は約70%で、昨年度より減少している。今後の課題に思われる。 90%以上の保護者が、「学校から配布されるプリント等の文書は、わかりやすく丁寧なものになっている」と回答した。 約90%の保護者が、我が子は「学校行事に意欲的に取り組んでいる」と回答したが、「学校行事は、感動あるものになっている」に対する肯定的回答は80%以下であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの配布物が保護者に手渡すように学校と家庭との協力が必要である。 いつでも学校の様子がわかるように、通信に普段の学校での様子や行事の様子、部活動の様子、道徳の授業内容などを載せてほしい。 部活動通信の発行(学校全体あるいは部ごと)はどうか。または、ホームページを活用してはどうか。 平日の学校行事は来られる人が少なくなり、寂しく感じる。できるだけ休日にしてほしい。やむなく平日に実施する場合は、来客を増やせるような工夫が必要である。 生徒によっては、保護者に見に来てほしくない年頃でもあるので、来ないでほしいと言われることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント等を配布する場合は、大切なもの、保護者宛、本人宛と一言添えて配布する。配布物のクリアファイルを用意する。 通信に、生徒の意見や感想を効果的に掲載し、家庭での話題を提供する。 個人情報の漏洩に配慮しながら、写真等を積極的に掲載し、様子がわかりやすい通信、ホームページを作成する。 行事は極力休日開催にする。平日に実施する場合は、地域への啓蒙を図り、広報努力する。 行事の写真販売や制服等のリサイクル活動をオープンスクールとセットにする等、PTAとの協力の下、参観者を増やす努力をする。 小学校にも案内を配布し、気軽に中学校を参観できるシステムを構築する。